1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300727			
法人名	株式会社Sincerely			
事業所名	シンシアリィ			
所在地	福島県郡山市三穂田町富岡字三本木原2番地82			
自己評価作成日	令和3年5月12日	評価結果市町村受理日	令和3年9月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

EHI III IXIXIXII					
評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会				
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3				
訪問調査日 令和3年5月31日					

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山市の介護事業所の中でも、指折りの自然に恵まれた環境が魅力です。私達は、その特色を活かして、利用者様とスタッフが関われる時間を重要と考え、大事にしています。

また、季節に応じた行事や企画にも力を入れており、ご好評をいただいております。

また、三穂田地域のカフェを有効利用し、事業所の情報発信に力を入れています。現在は、ホームページだけでなく、広報誌を月に一回発行し、事業所の様子や利用状況も情報発信しております。 今後も三穂田地域の皆様にとって、気軽に介護相談の出来る事業所づくりを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1. 毎月の業務会議開催に当たっては、前もってスタッフからアンケートで業務上の疑問や質問、希望など幅広い意見を事前に把握し、会議を効率的・効果的に運営している。また、管理者とスタッフとの定期的な個別面談に力を入れ、業務上のアドバイスを行う他、スタッフから忌憚の無い意見や様々な悩みを聞いており、結果として離職者が減少するとともに風通しの良い職場づくりにつながるなど効果を上げている。
- 2. 日々のケア場面では「親しさ」と「馴れ馴れしさ」を履き違えないよう、礼儀やマナー(特に言葉遣い)に気をつけている。管理者や介護リーダーのほか、職員間で注意し合える姿勢を大切にして利用者の尊厳に配慮した支援に努めている。

V.	Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項 目 取り組みの成果 ↓該当するものに○印			取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 〇 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 〇 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 〇 3. たまに 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	1. 大いに増えている 〇 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 〇 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 〇 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3/らいが				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш —
己	部	,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		こ基づく運営			
1	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	の時間を確保し、共有している。 また、理念の方向性が正しいかどうか関係各所		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	行委員会に所属しているので情報発信や情報収 集に力を入れている。 今年度は、コロナウイルスの状況もあり、自粛し ていたが町内会への加入や、消防団との協力が	コロナ禍で活動が制限されているなか、電話やインターネットを活用した「福祉相談会」を開催している。広報(毎月発行)やブログなどを活用し細やかな情報発信に努めている。町内会に加入しているほか、地元消防団も年1~2回来所し、事業所内の状況把握に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議や、ケア会議を通して、各地域での困りごとの事例に関して情報を共有し、地域の一員として、意見を出している。 会議内での意見を参考に、小規模多機能では、 買物代行サービスやグループホームでは、入所申込の早期手続き支援を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的 な改善課題がある場合にはその課題について話 し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、そ れをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催ではあるが、日常の様子をお伝えすることにより、より親身になって意見をいただけている。また、次回の会議に活かしている。今年度に関しては、郡山市の介護相談員も中止となっていた為、中止としていた。委員の皆様には、広報誌にて活動の報告をさせていただいていた。	対応の仕方などのアドバイスを受けていた。現在 はコロナ禍で事業所内での推進会議は行ってい	コロナ禍においても、文書等で運営状況を報告し、意見や質問を聴取する書面開催を行うなど、外部からの意見を運営に活かす工夫が望まれる。
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	で大変ありがたい。	郡山市担当課とはコロナ禍における感染対策の ほか、サービス取り組みにあたっての課題につい て意見交換を行っている。電話中心だが、こまめ に報告・相談をし、連携を深めている。介護事故の 内容を検証すると共に迅速に文書報告をし、アド バイスを受けている。	
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	を提供できている。 また運営推進会議にて身体拘束廃止委員会を開催し、 事業所の現状を報告し、方向性に誤りが無いか確認し ながら、対策に取り組んでいる。 今年度は、スタッフ会議にて2ヶ月に1回の頻度で取り	2ヶ月ごとに開催している身体拘束廃止委員会では、日頃のケア内容、拘束に該当するか否かのグレーゾーンの事例検討もなされている。日頃の声かけ、スピーチロックにも留意し、互いに注意し合えるように努めている。玄関の施錠は夜間のみで日中はしていない。	討会の記録が不十分であるので会議 録を整備し、その内容を職員間で共

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルのもと、スタッフ会議を中心に話し合いを行い、スタッフ自身が虐待に等しい言動について気付かない・気付けないということの無いよう努めている。		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	利用者様の情報が最優先になりがちで、介護保 険制度の深い理解や教育などは行き届いていな い一面がある。 定期的な、事業所内研修を計画し、学習する必 要がある。		
9		〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	特に新規利用者様に関して、事業所の出来る事と出来ない事を丁寧に説明し、契約前に理解や納得を得てから、契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	面会や行事での来所時に、事業所側から積極的にご本人の様子をお伝えしている。 コロナウイルスの状況もあり、ご家族様との外出 やお食事も控えている状況である。	コロナ禍で面会や外出が制限されているなか、家族には月1回電話で利用者の近況報告を行うと共に家族からの要望などを聴取している。利用者が発する身近な要望(入浴の順番、ご飯の固さなど)を傾聴し、生活の質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて定期的に要望や発信したい事を出してもらい、時期や期限を決めて、意見の精査をしている。 個人面談の設定は、3ヶ月に1回の頻度で実施しており、年4回はお互いの意見交換を行っている。 また、その都度所属長と簡単なミーティングを実施する事で、お互いの不安解消を心掛けている。	管理者とスタッフの定期的な個別面談(2~3ヶ月ごと)に加え、毎月の業務会議では全スタッフから事前アンケートを採っている。これらの取り組みをとおし、スタッフから忌憚の無い意見を得ると共に業務上の悩みの解消にも寄与している。	
12		など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	定期的に事業所に出向き、管理者から状況を聞いている。また、管理者で意見が止まることの無いように気を付けている。 組織の中で、必要な情報が円滑に行き届いているかの確認作業にも努めている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	事業所内研修の充実が図れていいない。原因は、スタッフ配置に余裕が無く、日程の確保も困難である。外部研修での内容を伝達講習会として実現出来ているのは昨年度の1件のみである。		

自	外		自己評価	外部評価	T
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、親睦会 への参加もあり。 その中で、業務上での経験談などを参考に、介 護サービスの質の向上に向けた意見を参考にし ています。		
Π.	安心と	上信頼に向けた関係づくりと支援			
15		と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時の対応が一番大事と考えており、正 しい情報の引き出しの為のヒアリングを徹底して います。 その為には、本人の生い立ちや考え方も理解し 接する事が大事である。		
16		こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご本人様のご自宅へ訪問し、実態調査の中から、ご本人を取り巻く環境の確認を重要視します。 また、常にご本人様がどうしたいかを問いながら、サービス提供をしています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	まず、実態調査の精度を高くして取組んでいます。現在希望している内容が本当に一番最適なのかを利用者様やご家族様に示し、本当にグループホーム利用で良いか。介護保険全体の枠組みで選択肢を示す事を考えている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で、ご自身で出来る事は以前同様 実施していただく。またスタッフと一緒に実 施する事もある。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご本人様とご家族のこれまでの関係性を把握し、 ご本人様とご家族様の双方の意見や立場を理解 して、信頼を得られるような関係性の構築を目指 している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から関係のあった方との関係性が継続できるように支援していく。 また、三穂田地域以外からの入居者様に関して、疎遠になりがちなので、郵送物や面会で関係性の維持を図っている。	入居前の実態調査時には、入居予定者の状況のみならず、入居前から係わってきた親族・知人等の情報を深くアセスメントし、入居後の継続支援に活かしている。現在は一時休止している馴染みの理美容店などの利用もコロナ禍が落ち着いてから再開の予定である。	

自	外		自己評価	外部評価	Ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様によってこれまでの生き方が違うので、スタッフがいかにその情報を仕入れ、事前準備出来るかが 事業所での生活を左右させるという事を理解する。 その上で、良い関係性を築ける環境を整えるお手伝い をする。		
22		の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様の情報は、出し惜しみする事無く、提供する事は当然として、その後も契約に従い、サービス提供に関する記録書類は5年間保管する。また、必要に応じその都度協力し合うよう努めている。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	担当スタッフがご本人様の情報収集を徹底する。 また、お一人お一人との時間を大切にし、ご本人	担当スタッフが利用者とのコミュニケーションを深め、 意向の把握に努めている。入浴ケアの場面では利用者と深く話せる貴重な機会と捉え、傾聴に努めている。意向確認が難しい場合は、日頃の行動や家族からの情報把握に努めている。また、利用者が管理者に直に話せる場も大切にしている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用前の実態調査などの精度を高め、これまでの暮らし方を性格、交友関係、既往歴、現病歴、金銭関係などの様々な面から想定し、ご本人様に合ったサービス提供に繋げている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ご本人様が思う生活が出来るように、サポートしていく。日々の状態や行動、言動を記録に残し、スタッフ会議で協議し、サービス提供に繋げている。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の話を伺い、スタッフ会議の中で情報を共有している。 また、主治医の診察や診療方針を基にして、介護計画を作成している。	スタッフ・利用者に加え、家族や医師からも広く意見を聴取し、介護計画を策定している。3ヶ月ごとを基本としながらも心身の状況等に応じて随時の見直しを行っている。ケースカンファレンスで話された内容(介護計画)はスタッフ会議で共有化している。モニタリング表に加え、「24時間生活変化シート」にて詳細を記録している。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に毎日の生活の様子や表情、スタッフの気付きを記入し、その大切な 記録をもとに実践し、スタッフ会議だけでな く、臨機応変に見直しも行っている。		

自	外		自己評価	外部評価	5
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の意向や状況を逐一把握し、本人 にとって必要な介護保険外サービスがある かどうかの検討もしていく場面も出てくること が予想される。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様ご家族や地域の皆様からの情報をもと に地域資源の情報収集をしている。 外出行事や三穂田地域での催しからも、その機 会をつくれるよう努力をしている。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を図っている。連携医療機関を希望の際は、医療	入居時にかかりつけ医か往診対応の協力医の何れかを本人・家族に選択頂いている。かかりつけ医への受診は家族対応を原則とし、受診簿により医師と受診情報を共有している。歯科も往診医対応、整形外科や皮膚科など専門医はかかりつけ医と連携しながら受診する等の支援を行っている。	
31			介護職員は、日頃からサービス提供記録や健康管理の情報に目を通しておく。 その中で、気になる事があれば、管理者や看護職員に報告をし、そこからかかりつけ医の指示を仰ぎ、対応している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時には、必要に応じてスタッフが同行し、医療機関への情報提供に努めている。 同行が難しい場合は、同行しているのと同等の 資料を準備し、ご家族にお渡ししている。また、そ の後も病院、主治医と連携を図っている。		
33	(12)	でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	利用契約時での説明と、症状悪化時の再度の説明を実施している。症状の度合いによっては、かかりつけ医が同席し、医師の口から直接説明をしている。 事業所での加算算定は行っておりません。現在は、管理者や所属長のみが知識を有している状況なので、一般職員への事業所内研修に力を入れていく予定です。	契約時に重度化対応・終末期対応について説明している。状況変化時は主治医から家族に説明している。特養など希望があれば申請の支援もしている。終末期には往診医の協力を得て入院対応もしている。また、看取りについては管理者やリーダーが外部研修を受け、看取りに向けた支援体制を整えている。	
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	事業所の緊急連絡網を定期的に整備しており、 必要に応じた体制をスタッフと共に想定してい る。 また、急変時に関しては、かかりつけ医との連携 も実施出来ている。		

自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	I
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに従い、水や食料の備蓄を進めている。昨年度は、消防署立会での避難訓練を実施した。 今後も定期的な消防計画や災害対策の見直しが必要であると考え、現在実態に即した対策を検討している。 (災害により、スタッフが出勤出来ない場合など)	消防署立ち会いの総合訓練、小規模事業所と合同の地震想定避難訓練と2回避難訓練を実施している。その他2か月に1回通報訓練などを実施し、水や食料品の備蓄をして災害に備えている。なお、災害時の事業継続の観点から消防計画、災害計画の見直しを進めている。	災害計画見直しの中で福祉避難所な ど避難先の検討が望まれる。また、地 元消防団の訪問機会をとらえ、避難 訓練を行うなど地域の協力体制を構 築することが望まれる。
IV.	その				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やこれまでの人生、生活環境を 尊重する事により、敬う気持ちが更に芽生える。 人生の大先輩として敬意を持ち、その人や場面 に合った接し方をするよう努めている。	管理者は、利用者への言葉かけは崩れやすいことを念頭に置き、親しみやすさと馴れ馴れしさは違うことを伝えている。また、具体的な事例を基に話し合いをし尊厳保持に努めるほか、職員同士気軽に注意しあえる雰囲気づくりをしている。さらに個人ファイルは鍵付きロッカーに保管している。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常生活の中からその方への想いや希望 を汲み取り、お話しやすい環境づくりを心掛 け可能な限りの選択肢を示すことで、自己 決定しやすくしている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位になるように、まずは、業務フローや勤務体制を考えずに利用者様主体となるような計画を考え検討している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	利用者様の嗜好を確認し、出来るだけ本人の好きなものを選んでいただくよう、心掛けている。 今後は、食事の嗜好調査だけでなく、趣味や身なりについても検討したい。		
40	, ,	〇食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食 事が楽しいものになるような支援を行っている	食器拭きや、テーブル拭きなどの食事の後片付けを中心に、スタッフと一緒に行っている。 但し、利用者様の認知度や身体状況による部分もある為、現在は実施できていないのが現状である。	利用者からお手伝いしたい希望が出た時など一緒に片付けなど行っている。利用者の嚥下能力に合わせ常食・ミキサー食・ソフト食で対応している。利用者の希望を行事食に取り入れたり、ラーメンや出張すし等食事に変化を持たせ楽しめるよう取り組んでいる。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	利用者様の状態や食形態に合わせて提供 している。水分量のチェックも行い、必要な 水分量を保持している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後は、口腔ケアを実施していただいている。ご自身で難しい場合は、スタッフの支援のもと実施している。		
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様毎に、排泄のパターンを掴めるよう支援している。最後までトイレで排泄が出来るように支援している。失敗した際の、声掛けには特に注意している。	排泄状況を時間毎に記録し、パターンを把握している。自力排泄が出来ない方にはタイミングを見て声掛けを行い、トイレでの排泄を支援をしている。夜間はポータブルトイレを使う方もおり一人ひとりの状況に合わせた自立支援をしている。失敗したときは、言葉を選ぶなど尊厳や羞恥心にも配慮している。	
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分補給と体操を行い、無理のない排便が 出来るようにしている。 また、主治医と管理者、看護職員と連携し内 服薬でも調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のご希望に沿った入浴を行っている。入浴が苦手な方は、声掛けの方法やタイミングを工夫し、週2回以上入浴できるよう支援している。	週2回を基本に午前の時間帯で利用者の希望で順番や時間を決めて入浴している。排泄で汚れた時は随時対応する他、入浴拒否の場合は時間や入浴日を変更している。また、入浴は1対1で利用者の話をゆっくり聞きながら、入浴剤で温泉気分を味わう等楽しめるよう取り組んでいる。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースやご希望に合わせて、お好きな時間に休んでいただいている。 室温や湿度の管理も行い、安心して休んで いただくような支援をしている。		
47		状の変化の確認に努めている	管理者、介護リーダー、介護支援専門員、看護職員が中心になって管理をしている。 また利用者担当スタッフも薬の目的や副作用などの理解に努めている。また、主治医に状態の変化時は連絡を必ず入れている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の現在の状態やこれまでの生活歴をスタッフが把握し、趣味嗜好を理解している。 これまで出来ていた事は今後も実施していただき、ご本人にやりがいを感じていただいている。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に沿った外出支援を心掛けている。 また行事を定期的に計画し、お花見や紅葉狩り を実施している。また、ご家族様に面会を兼ねた 外出を計画していただき、定期的に外出をしてい る。 今年度は、ご家族様との連携は図れなかった。	コロナ感染防止のため外部の方と接触がない場所にドライブで外出している。また天気の良いときは散歩に出かけ気分転換をしている。買い物の希望には職員が代わって購入してくるなど希望に応えている。整形外科などへの受診時は、家族と外出している。	
50		ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方が多いため、外出先での 飲食や日用品の立替は事業所で対応している。 必ず契約時に説明をし、金銭の持ち込みは極力 行わないようにしている。 預り金制度も実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある場合は、スタッフが電話をかけ、ご本人と代わってお話をしていただく。		
52	(19)	居心地よく過ごせるような工夫をしている	応じた企画や装飾を施して演出をします。	季節ごとの共同制作品を居間の壁面に飾り四季が感じられるようにしている。また、エアコンや加湿器を活用しながら換気に努め、快適な環境保持に努めている。テレビ鑑賞のためのソファーコーナー、創作や一人を楽しむスペースなど利用者が好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫して取り組んでいる。	
53		用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	利用者様によっては、席を移動し交流する方も多い。ただし、他者との交流が苦手な利用者様に対しては、孤立しないようにスタッフが仲介するなどの対策を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大 切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安 心して過ごせる環境整備の配慮がされている (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居 室について、馴染みの物を活かしてその人らしく 暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人様、ご家族と相談しながら、馴染みのもの や好きなものをお部屋に持参していただき、ご本 人様が居心地よく過ごしていただける環境整備 に努めている。	入居時に家族の方の協力を得て仏壇やテレビ、写真、時計、衣装ケース等馴染みのものを持ち込み居室を整えている。ベットの位置も本人の移動に配慮し決めている。清掃は職員が主に行っているが物の位置を本人に確認しながら行うなど」混乱を防ぎながら居心地の良い環境保持に努めている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	居室に、ネームプレートを準備し、部屋を間違える事や混乱を招かないように努めている。ご自身で、好きな時に居室に戻れるように、自立できる環境の支援をしている。		